# 幻想郷☆ステーション

えふちー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

## 注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
幻想郷☆ステーション

【Ｎコード】
Ｎ７４４１Ｉ

【作者名】
えふちー

【あらすじ】
銀龍達は思ったのだ。
「あれ？このコーナーって本編と別にしたらいいんじゃね？」
と…
はい、『銀の龍と愉快な仲間たち』の第１６話後書きで始まった『幻想郷ステーション』の別枠でございます。
本編のほのぼの（悪く言えばだらだら）具合にさらに拍車がかかっております。
なんのことか分からない方は『銀の龍と愉快な仲間たち』を読むこ

とを推奨します。

## 第一回「放送出来てるのこれ？」（前書き）

あー、それはこっちだリニア、そうそう、テーブルはこの辺な。配線はカプセルに繋げば大丈夫じゃね？…分かった、じゃあ頼んだよー。あ、ネサラディア！そろそろ始めるぞ！

はい、カウントいくよ

3、2、1……

# 第一回「放送出来てるのこれ？」

第一回
新番組『幻想郷☆ステーション』

フ「はい、始まりましたよついに。いやぁ…本編読まずにこれから読む人には何がなんだか分かんないだろうなぁ」
ネ「本編？…何を言ってるか分かんないけど…まあ面白おかしくやっていけば良いじゃない」
フ「お、良い意見。久しぶりにネサラディアがまともな事言ったね！皆、明日は上空からの爆撃に注意だ！ＨＡＨＡＨＡ！」
ネ「そのキモい笑い方やめなさい。……爆撃なんかないわよ！！」
フ「まあそれはともかく。この番組、台本ありません。打ち合わせもしてません。ゲストはただいま黒とリニアが調達に行ってます☆な感じなんだなこれが」
ネ「わー、驚くほどの無計画ー。こんな番組放送していいのかー」
フ「いいんです！何故ならここは…幻想郷だから！！」
ネ「ん？…だいたいラジオ番組って言うけど…幻想郷の一般家庭にラジオはあるの？根本的な話として」
フ「……」
ネ「ちょ、なにこの沈黙、放送事故？て言うか放送されてる？」
フ「大丈夫！今読者の皆が読んでくれてるから！」
ネ「読者？…さっきから訳の分からない事ばっかり言ってるわね…」
リ「マスター、ゲストを拉致して参りました」
フ「うわーぉ、流石リニア、仕事が早いね。でもその表現は止めよう。なんか放送出来なくなりそう」
リ「了解しました」
霊「ちょっと…何よこの変な部屋は？何あのでかい…カプセル？」
フ「お、記念すべき第一回のゲストはなんと！自称『楽園の素敵な

巫女さん』！博麗霊夢でしたぁ…はぁーぁ」
霊「何かしらその明らかなテンションの落ち様は」
フ「ＯＫ悪かった。悪かったからその札をしまいな霊夢ちゃん」
ネ「うわぁ、霊夢こわーい」
霊「何かしら？」
ネ「ごめんなさい」
フ「はい、そんな霊夢ちゃんに質問ハガキが来てまーす」
ネ「え？なんでそんな都合良く…？」
フ（シーッ！捏造だよ、ね・つ・ぞ・う☆）
ネ（なんて言うかあれね、ダメねこの番組）
霊「質問ハガキ？誰からよ」
フ「まあまあ落ち着いて、今読むから。えーと…あっ、ＰＮ．『赤と緑の緑色の方』さんからのお便りです」
霊「なんで今ちょっと思い付いたみたいに言ったの？」
フ「……『なんで霊夢はいつも腋を露出してるんですか？露出狂ですか？誘ってるんですか？舐めていいですか？むしろその控えめな乳を舐めていいですか？』」
霊ネ「……」ネ（ちょ、今の捏造よね？）
フ（見たか我が奥義、リアルタイム遠距離読心術☆）
ネ（放送聴いてたらビックリするでしょうに）
フ（リスナーへの粋なサプライズ…プライスレス）
ネ（あんたの脳味噌もプライスレス級ね。悪い意味で）
霊「…真面目に答えるけど…全否定。別に誘ってないわ」
フ「真面目に答えた！？」
霊「でも…どうしてもって言うなら…舐めるくらいは…」
フ「ま、ちょっ、待った！放送禁止放送禁止！！」
ネ（質問の時点で放送禁止な気がしないでもないけど）
霊「ぁによ馬鹿龍…」
フ「あ、お顔真っ赤☆」
霊「夢想封印！！！」

（しばらくお待ちください）

フ「痛い…」
ネ「なんで私まで…」
フ「怒って帰っちゃったし…今日は終わり！何より痛い！ではリスナーのみんな！またね☆」

## 第一回「放送出来てるのこれ？」（後書き）

どうも、えふちーです。
いやぁ、思い付いたままやっちまいました。
もうね、息抜き程度に考えて下さい（笑）
このコーナーでは、普段見れない意外な一面も見れたり見れなかったり。
まあとにかく本編と併せて（こちらはスローペースですが）更新していきますのでよろしくお願いしますm（__）m

## 第二回「あけおめーるって便利だね」（前書き）

あーそろそろ時間か…
コタツから出たくないなぁ…
仕方ない！コタツを持っていこう！

## 第二回「あけおめーるって便利だね」

第二回

【略して】幻想郷☆ステーション【幻ステ】

フ「あれ？その略し方ってちょっと某音楽番組みたいでよくね？カッコよくね？」
早「M〇テですか？」
フ「そうそう〇ステ…ってなんで早苗いるの？」
早「え？なんでって…」
リ「今回のゲストでございます、マスター」
フ「あー、そうだったそうだった…はい、今日のゲストは東風谷早苗さんでーすよろしくー」
ネ「わー（ぱちぱち）」
早「そういえば…私の妄想を放送しましたよね……」
フ「え！？お前あれ聞いてたの！？」
早「文さんが皆に言ってましたよ？『今日から新しい番組が始まるよー』って」
ネ「へぇー…でもさ、ラジオある家ってあんまり無いわよね」早「文さんが配ってましたよ？小さなラジオを」
フ「ちっ…あやややめ…余計な事を…」
ネ「いや、喜ぶべき所じゃないかしら？リスナー増えるし」
フ「だって前回のはテストみたいな感覚だったし…」
早「私はそのテストでプライバシーを侵害されたわけですが」
フ「……気にすんな☆（キラッ」
早「常につっこまなきゃいけませんか？」
ネ「つっこんでも無駄よ早苗」
早「ええ、なんとなくは分かってます」
フ「さて！読者のみんな！前回の放送からだいぶ時間が経ってしま

ったね！」
ネ「急に始まったわね」
早「読者って誰ですか？」
フ「早いもので２００９年丑年も残すところあとわずか！さよならけーね！」
早「なんで慧音さんなんですか？」
ネ「慧音が牛だからじゃない？」
フ「そしてもうすぐクリスマス！みんなでサンタさんを狙撃しよう！☆」
ネ「狙撃なら任せなさい！」
早「ちょっ、落ち着いて下さいネサラさん！」
フ「我が屋敷では着々とパーティーの準備が進んでおり……ません！今年は紅魔館に突撃するんだぜ☆」
ネ「わー（ぱちぱち）」
早「また横暴な…」
フ「去年は博麗神社に突撃して大変な目に遭いました…買い出しとか買い出しとか買い出しとか」
早「まあ貴方速いですし…」
ネ「酒にも酔わないしね」
フ「だがしかし！紅魔館なら買い出しは必要ない……はず！何故なら金持ちだから！某神社と違って！」
ネ「絶対霊夢が来るわね」
早「ええ…主に虐殺目的で」
フ「と言うわけでれみりゃとさっきゅん、準備よろしくー！」
早「もの凄い勝手ですね」
ネ「これが馬鹿龍クオリティよ」
フ「おっと…そろそろ時間だね！それではみなさん、あけおメリークリスマース！！」
早ネ（来年まで放送無しって事か…）

## 第二回「あけおめーるって便利だね」（後書き）

お久しぶりです、えふちーです´ω`）ノ
前回からだいぶ時間が経ってしまいました。申し訳ありませんm（
＿＿）m
本編の方も今年中に更新致します。

さて、もうこんな季節ですね…個人的に冬は好きです。雪は世界に
静けさを与えてくれますからね。ただ吹雪は嫌ですが（ ∀`；）
それでは、第三回でお会いしましょう。

## ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

---

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7441i/

---

幻想郷☆ステーション

2010年10月10日15時56分発行